



学園花の村機関紙第90号

2016年4月3日(日)

編集兼発行人 松井道夫

TEL (0537) 24-0101

FAX 24-0242

〒436-0079

掛川市掛川1065

協同組合懇話会で語る

花の村活動の原点は「報徳」

目指す「みんなでやろう小さい農業」

学園花の村事務局長 藤本 将

平成28年2月2日(火) 13時30分から港区、共栄火災本社で協同組合懇話会(以下懇話会と略)で「学園花の村」の活動を語る機会があり、当方から藤本、伊藤、松井の3名が出席しました。聴取者は30名ほどでした。

懇話会は全中、全農、農林中金、全森連、全漁連、日生協などの協同組合の全国連により組織された任意団体で毎月1回講師を呼んで勉強会を実施している。

昨年6月花の村を訪れた懇話会の前代表幹事の中原氏から花の村の活動状況を話して欲しい。それも報徳に力点をおいてレポートして欲しいとの依頼がありました。

中原氏の問題意識としては農協改革が世間で叫ばれている中で農協自体が自らの問題として

取り組んでいるところで特筆されるのは北海道と鹿児島である。このいずれにも共通するのは系統運動の中に報徳が根付いているからであり、「学園花の村」運動のベースにも報徳があると認識している。そういう思いもありお願いしたことでありました。もちろん花の村の創設者宮城正雄さんは尊徳の信奉者です。底流にそれが流れております。

楽しみながら農業をやるのがモットーの「花の村」里山倶楽部で昨年は布マルチ稲作にチャレンジしました。省力化が図られ食味もすこぶる美味で高い評価を受けました。布マルチ稲作の考案者津野幸人氏は花の村の理論的指導者として設立当時からご指導いただいております。

除草剤を使わずに米作りができるということが具体的な事実で示すことが何よりも大切な旨を強調しました。

またいつもながら300CCのペットボトルに1合のコメをいれ、このコメがいくらするかを問いかけてました。もちろんすぐに返事は返ってまいりません。

1合が日本人が1日に食べるコメの量で今の生

産者価格では27円、一方で300CCいりの容器は自販機で130円する事実を説明すると一様に驚きます。

これからの米作りはリーズナブルな価格で生産者にも消費者にも説明できる価格設定が大きな課題です。

「食はいのち通信創刊10周年の

「ごい」に参加して

3月5日(土) 11時30分から、掛川市内のアイリーカフェで「食はいのち」通信創刊10周年の集いが催され、花の村から松井さんと藤本が出席しました。「食はいのち」通信は加藤時子さんが毎月1日に発行されるミニコミ誌です。当日は12名のこじんまりとした会でしたが交わされる話の内容が食を真剣に考えようとする意識の高いものでした。会の参加者の取り組みに花の村の活動がうまくコミット出来ればと期待しております。

小生から低米価にもっと農家はもっと怒りを訴えるべきだと申し上げたところ、早速今年から布マルチ稲作に取り組みたいという農家の主婦が現れました。花の村としても積極的に応援したいと考えております。

(藤本 記)